



FUJIKURA COMPOSITES

BUSINESS REPORT

2022

第143期 年次報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

過去最高収益を達成し、 ワンランクアップしたステージで プライム市場に相応しい 企業改革に邁進します。

代表取締役社長 森田健司



日頃は格別のご支援を賜りお礼申し上げます。

ここに第143期年次報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当期は、コロナ禍の影響を受けたものの、ワクチン接種の普及や各種政策により消費活動が再開する等、経済活動の持ち直しの動きが見られた一方、長期化するサプライチェーンの混乱や原材料価格の高騰、半導体不足、急激な円安などから、景気の先行きについては不透明な状況が続きました。

このような事業環境下で、当社グループでは、2021年10月25日に創立120周年を迎えました。第143期は、2021年3月期から2025年3月期に至る「第6次中期経営計画」の回復期の2期目となります。第142期からのV字回復を目指し、受注拡大を進めてきました。さらに、コロナ禍で進めた販管費削減の継承と、各製造現場での生産性向上策等の効果により過去最高収益を達成し、「第6次中期経営計画」の回復期3ヵ年合計売上目標1,000億円を、ほぼ達成する見込みです。

第143期の業績は、当社グループの主力部門である自動車関連が世界的に好調な需要に支えられたことで増収

となった他、半導体・液晶市場の設備投資も引き続き好調で増収となりました。さらに、ゴルフ用カーボンシャフトでは、自社ブランド商品のブランド確立に向けた取り組みがゴルフアーの支持を集めたことで、国内外での販売が好調に推移し、スポーツ用品セグメントでは大幅な増収増益を達成することができました。

このように、すべてのセグメントで増収増益を達成したことから、当期における連結業績は、売上高は371億90百万円（前年同期比27.0%増）、営業利益は41億60百万円（前年同期比255.0%増）、経常利益は47億78百万円（前年同期比206.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は、40億62百万円（前年同期比243.5%増）となりました。

当社グループは、産業用資材、引布加工品、スポーツ用品を中心としたゴム製品の製造と新素材の開発・加工といった事業を展開しており、多くの事業セグメントを有しています。時代の変化に伴う特定の事業セグメントの受注減に伴うマイナスの影響を、他の事業セグメントの成長によるプラスで打ち消し、リスク分散をすることで、安定して着実な成長をしてきました。今後も既存の事業を大切に

育成し、並行して次代の成長を担う新市場への参入、新製品の開発に注力し、藤倉コンポジットブランドの強化と浸透を推進していきます。

2020年4月、当社グループは事業部制を導入しました。各事業部では、海外子会社も含めた事業戦略と収益計画を策定し、事業ポートフォリオの再構築を進め、その中で効果的な経費運用で利益率を高めてきました。この縦串に加えて、各事業部の生産性を高める生産技術部を中心に、生産工程の見直しやAIとカメラ画像による自動検査ラインの導入など、全社で生産効率を向上させる横串も強化し、中期経営計画の回復期に設定した「守り」の改革に相應しい事業基盤を確立できました。

第144期（2023年3月期）からは、これまでの2期の回復期に培った高収益な生産体制を最大限活かして、持続的な成長を目指す成長期、「攻め」の3カ年に突入します。第143期にて、「第6次中期経営計画」の回復期3カ年合計売上目標をほぼ達成する見込みであることから、当社グループは、3カ年合計売上目標を1200億円とした新たな経営指標を設定し、株主の皆様への還元も視野に入れた高収益企業として、ワンランク上のステージに立つ

た「新生藤倉コンポジット」の構築を進めていきます。

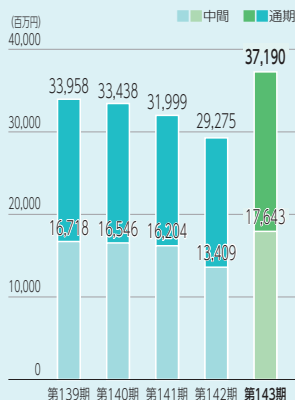
2021年11月、東証の新市場区分への移行に関して、当社は「プライム市場」を選択することを決議し、同年12月に、上場維持基準の適合に向けた計画書を発表しました。中期経営計画の達成により収益性を向上し、1株当たりの当期純利益（EPS）を高めることで株価の上昇を目指しながら、自己株式取得と新株予約権の発行を組み合わせることで流通株式時価総額を向上させ、プライム市場の上場維持基準を満たしていく予定です。

株主の皆様に対する配当につきましては、安定的な配当を継続しつつ、さらに利益還元を充実させるために、配当と自社株買いを加えた総還元性向を30%として目標設定しました。2022年3月期の配当については、1株当たり26円（中間10円、期末16円）といたしました。また、2023年3月期の配当につきましては、1株当たり32円（中間16円、期末16円）を予定しております。

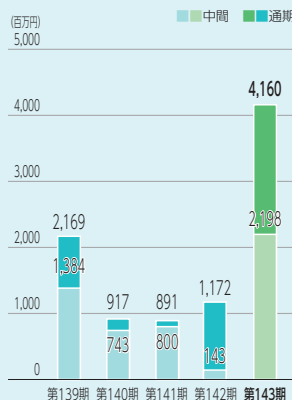
株主の皆様には、なお一層のご愛顧とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2022年6月

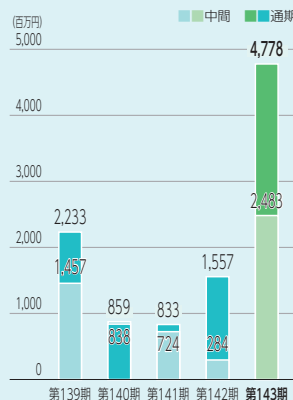
連結売上高の推移



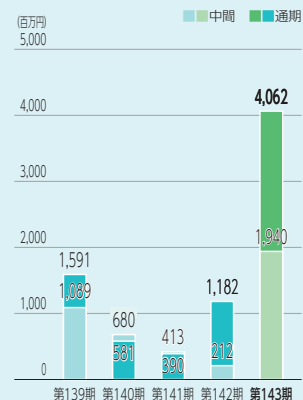
連結営業利益の推移



連結経常利益の推移



親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益の推移



Q1 当期を振り返っていかがでしょうか。

2022年3月期（当期）は、コロナ禍の影響を受けつつも、ワクチン接種の普及など世界的に経済活動の持ち直しの動きが見られ、順調に受注を獲得できたことから過去最高収益を達成いたしました。各セグメントとも順調に受注を拡大し、全社を挙げた生産性向上が功を奏したことで、グループ全体で売上・利益が増加し、当社グループのステージがワンランクアップしたという実感を持つことができました。

一方、東証の新市場区分で「プライム市場」を選択し、上場維持基準の適合に向け、株主様はもちろん従業員への利益還元に向けた取り組みも実施し、新たな攻めの体制整備に着手しました。

そして、「第6次中期経営計画」の回復期3ヵ年合計売上目標1,000億円をほぼ達成する見込みであることから、2023年3月期から始まる成長期の3ヵ年合計売上目標を1,200億円にランクアップし、更なる高みを目指すことにしました。

Q2 当社グループの主な事業「産業用資材」「引布加工品」「スポーツ用品」について状況をお聞かせください。

「産業用資材」では、当社グループの主力である工業用品部門においては、年度後半から原材料価格の高騰や供給の遅れなどが発生しましたが、自動車関連・住宅設備関連ともに世界的に好調な需要に支えられ増収増益となりました。制御機器部門も半導体・液晶市場の設備投資が好調で、医療機器市場も堅調に推移し、セグメン

ト全体で増収増益となりました。

「引布加工品」では、加工品部門の舶用品は国内市場向けが低迷しましたが、引布部門と印刷材料部門は増収増益となり、セグメント全体で増収増益を確保しました。

「スポーツ用品」では、米国モデル「VENTUS」と日本モデル「SPEEDER NX」が日米で多くのツアープロに使用され、世界的なシェアでほぼ過半数を占めたことから、多くのゴルファーの注目を得ることができました。そして市場投入前に、当社ブランドのコンセプトと機能を市場にアピールすることでブランドの魅力をゴルファーに伝えることができ、大幅な増収増益を達成しました。

Q3 今後の課題と対策についてお聞かせください。

「第6次中期経営計画」は、受注確保と販管費削減、生産性向上に注力した結果、回復期の3ヵ年売上目標1,000億円をほぼ達成する見込みです。

そこで、2023年3月期からの成長期の3ヵ年売上目標を1,200億円として、営業利益率を10%以上とした新たな経営指標を設定し、株主様にその利益を還元する経営にシフトすることにしました。既に、産業用資材セグメントやスポーツ用品セグメントでは、成長市場向け製品の開発に注力し、人手不足の解消や働き方改革、生産利益の最大化を目指した自動化を推進しております。

2021年4月、次世代自動車プロジェクトは「NEP（次世代自動車）推進室」と名称を変えて組織化いたしました。現在は自動車メーカー様と内燃関連と電動関連のユニット別アプローチに向けた製品開発を進めておりま

す。また、複合技術の強みを生かし、両ユニットの共通分野の車体部品や自動カメラ・センサー等の開発に向けたアイテムの試作も進めております。当社のアプローチ幅を拡大し、将来の成長基盤の強靱化を推進してまいります。

世界的な不足が叫ばれている半導体・液晶市場については、次世代製造装置に搭載される機器、ユニット品の開発を進めており、2024年以降の量産化を視野に入れています。

医療分野では、クリーンルームを擁する原町工場のLIM棟で、医療用逆止弁などの製品を製造しております。今後も、成長分野の1つとして引き続き注力していきます。

そして、ゴルフシャフトは、米国モデル「VENTUS」と日本モデル「SPEEDER NX」を中心に、自社ブランド品の価値向上に向けたブランディング活動を加速するとともに、ブランド力を更なる高みへ牽引する新モデルの開発を推進し、当社グループの主力製品分野として育成していきます。

Q4 最後に、株主様へのメッセージをお願いします。

当社は、2021年11月、東証の新市場区分で「プライム市場」を選択することを決議し、株主の皆様への利益還元では、配当と自社株買いを加えた総還元性向30%という目標を設定しました。これに基づき、2023年3月期の1株あたり配当金は中間16円、期末16円として、通期で32円を予定しております。

SDGsへの取り組みでは、CSR推進室を中心に、地域と密着した環境保護活動に積極的に参加しています。さらにCO₂削減を含め、工場敷地内でのソーラーシステム設置などの検討を開始しました。

株主の皆様には、倍旧のご愛顧と、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



フジクラシャフト新商品のご案内

TOPICS 01

VENTUS TR BLUE (ベントス ティーアール ブルー) ～世界中のトッププロから信頼を勝ち得た安定性を次のレベルに～

Fujikura USにて、PGAツアー使用率No.1を奪取すべく、トッププロの要求に応えるシャフトとして“VENTUS TR”を開発いたしました。たたけるフィーリングの飛距離とコントロール性能を両立した元調子系シャフトです。優れたボールコントロール性能を実現した「VelocoreTechnology」がさらに進化しております。最外層に開織クロス材を採用することにより、中間部の剛性を高め、さらなる安定性を追求した、ツアープロからのフィードバックをもとに生まれた新しいVENTUSの誕生です。



TOPICS 02

DAYTONA SPEEDER X (デイトナスピーダーエックス) ～異次元のスピード感を継承しなめらかな振りやすさを追求したプレミアムモデル～

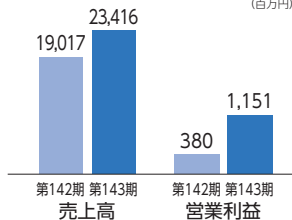
「今、地球上にある材料で、最高に飛ぶシャフトを作る!」として開発し、2019年3月に発売した「DAYTONA SPEEDER」。特徴際立つ素材をボロン繊維でまとめ、その弾きとスピード感を多くの方に飛距離性能を高く評価頂きました。その飛距離性能をより多くの方に体感していただくため、切り替えしでタメが作りやすく、手元部分からなめらかにしなる中元調子に仕上げたのが「DAYTONA SPEEDER X」です。



63.0% 産業用資材

工業用品部門は、年度後半より原材料価格の上昇や供給の遅れなどが発生し始めたものの、自動車関連・住宅設備関連ともに世界的に好調な需要に支えられ、増収増益となりました。制御機器部門は、引き続き半導体・液晶市場の設備投資が好調を維持し、また、医療市場も堅調に推移し増収増益となりました。

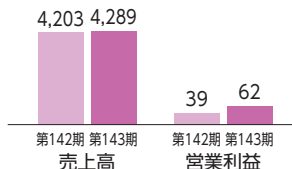
この結果、売上高は234億1千6百万円(前年同期比23.1%増)、営業利益は11億5千1百万円(前年同期比202.4%増)となりました。



11.5% 引布加工品

引布部門は、自動車及び電気・電子関連の好調が継続し、増収増益となりました。印刷材料部門は、輸出の受注回復があり、また生産体制見直しの効果と円安の影響により、増収増益となりました。加工品部門は、電力関連向け及び産業用資材関連は比較的堅調に推移しましたが、舶用品の国内市場向けが低迷し、減収減益となりました。

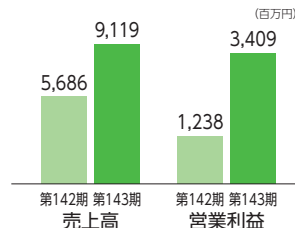
この結果、売上高は42億8千9百万円(前年同期比2.0%増)、営業利益は6千2百万円(前年同期比58.2%増)となりました。



24.5% スポーツ用品

ゴルフ用カーボンシャフト部門は、米国モデル『VENTUS』と日本モデル『SPEEDER NX』が日米で多くのツアープロに使用され、一般ユーザーへの認知が広がり、自社ブランド商品の販売が国内外で好調に推移し、さらにクラブメーカー向けOEM品の受注が増えた事により、増収増益となりました。アウトドア用品部門は、ハイキング市場が回復基調にあるものの物流の遅れ等により在庫不足になっておりましたが、第4四半期に入り海外生産の回復が進み、増収増益となりました。

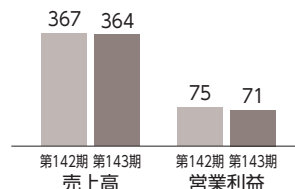
この結果、売上高は91億1千9百万円(前年同期比60.4%増)、営業利益は34億9百万円(前年同期比175.2%増)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は3百万円減少し、営業利益は1百万円減少しております。



1.0% その他

運送部門は、売上面では前年度のような主要顧客の休業等の影響もなく堅調に推移しましたが、原油価格の高騰の影響を受け燃料費がかさみ、減収減益となりました。

この結果、売上高は3億6千4百万円(前年同期比0.8%減)、営業利益は7千1百万円(前年同期比4.9%減)となりました。



連結財務諸表 Consolidated Financial Statements

■ 連結貸借対照表 (要旨)

科 目	期 別	当期末 2022年3月31日現在	前期末 2021年3月31日現在
資産の部			
流動資産		23,735	20,707
現金及び預金		6,905	5,780
受取手形及び売掛金		10,710	9,698
商品及び製品		2,223	1,854
仕掛品		2,613	2,174
原材料及び貯蔵品		836	695
その他		512	557
貸倒引当金		△66	△53
固定資産		14,015	14,168
有形固定資産		11,808	12,117
無形固定資産		100	123
投資その他の資産		2,105	1,927
資産合計		37,750	34,875

(単位: 百万円)

科 目	期 別	当期末 2022年3月31日現在	前期末 2021年3月31日現在
負債の部			
流動負債		8,636	7,981
固定負債		1,641	2,074
負債合計		10,277	10,056
純資産の部			
株主資本		26,283	24,672
資本金		3,804	3,804
資本剰余金		3,212	3,212
利益剰余金		21,341	17,676
自己株式		△2,074	△20
その他の包括利益累計額		1,180	147
新株予約権		9	—
純資産合計		27,473	24,819
負債純資産合計		37,750	34,875

■ 連結損益計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科 目	期 別	当期	前期
		2021年4月 1日から 2022年 3月31日まで	2020年4月 1日から 2021年 3月31日まで
売上高		37,190	29,275
売上原価		26,902	22,687
売上総利益		10,288	6,587
販売費及び一般管理費		6,127	5,415
営業利益		4,160	1,172
営業外収益		706	478
営業外費用		87	92
経常利益		4,778	1,557
特別利益		452	—
特別損失		69	32
税金等調整前当期純利益		5,161	1,525
法人税、住民税及び事業税		1,061	333
法人税等調整額		37	9
当期純利益		4,062	1,182
親会社株主に帰属する当期純利益		4,062	1,182

■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科 目	期 別	当期	前期
		2021年4月 1日から 2022年 3月31日まで	2020年4月 1日から 2021年 3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		4,795	3,129
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 418	△ 1,374
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 3,772	△ 1,449
現金及び現金同等物に係る換算差額		521	△ 54
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		1,125	251
現金及び現金同等物の期首残高		5,780	5,528
現金及び現金同等物の期末残高		6,905	5,780

会社概要 (2022年3月31日現在) Corporate Data

■ 会社概要

創 業 1901年 10月
資 本 金 38億 429万円
従 業 員 数 連結 2,611名
単体 737名

■ 役員 (2022年6月29日現在)

代 表 取 締 役 森 田 健 司
取 締 役 社 長
常 務 取 締 役 金 井 浩 一
常 務 取 締 役 高 橋 秀 剛
取 締 役 弓 削 千 賀 志
取 締 役 (社 外) 長 浜 洋 一
取 締 役 (社 外) 佐 々 木 聡
常 勤 監 査 役 植 松 克 夫
監 査 役 (社 外) 細 井 和 昭
監 査 役 (社 外) 田 中 響 子

● 取締役 長浜洋一及び佐々木聡並びに監査役 細井和昭及び田中響子の各氏を、東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員として同取引所に届け出ております。

■ 子会社 (*:連結対象)

会社名	国名	主要な事業内容
* 株式会社キャラバン	日本	アウトドア用品の販売
* 藤栄運輸株式会社	日本	運送事業
* Fujikura Composite America, Inc.	米国	ゴルフ用カーボンシャフトの販売
* FUJIKURA GRAPHICS, INC.	米国	印刷用ブランケットの販売
* IER Fujikura, Inc.	米国	工業用ゴム製品の製造販売
* 杭州藤倉橡膠有限公司	中国	工業用ゴム製品の製造販売
* 安吉藤倉橡膠有限公司	中国	工業用ゴム製品の製造販売
* FUJIKURA COMPOSITES HAIPHONG, INC.	ベトナム	産業用資材、引布加工品及びゴルフ用カーボンシャフトの製造
株式会社藤加工所	日本	救命筏、産業資材の製造
株式会社アールアンドアールフジクラ	日本	ゴルフクラブのリシャフト・フィッティング
株式会社藤光機械製作所	日本	産業用精密部品の製造
株式会社福島キャラバン	日本	アウトドア用品の流通
株式会社アイオス	日本	精密金属加工
Fujikura Composites Korea, Co., Ltd.	韓国	工業用ゴム製品、制御機器、アウトドア用品の販売
Fujikura Composites Europe B.V.	オランダ	印刷用ブランケットの販売
藤栄サービス株式会社	日本	障害者雇用を目的とした特例子会社

■ 当社グループ主要製品及び商品

工業用品

ダイヤフラム、BFダイヤフラム、シール部品、精密部品、アンブレラ、ダックビル、防振ゴム、水ガバナ

制御機器

各シリンダ、レギュレータ（減圧弁）、流量調整弁、チェック弁、リリーフ弁

電気材料

超低硬度材料、各種機能性テープ、常温収縮チューブ、導電・絶縁材料、風力発電機用ブレード保護シート、マグネシウム空気電池

引布

ゴム引布、極薄ゴムシート、接着・粘着処理、ラテックス

印刷材料

印刷用ブランケット

加工品

船舶用救命設備、航空機用救命設備、コンサベータ、産業用資材

スポーツ用品

ゴルフ用カーボンシャフト、産業用CFRP製品、アウトドア用品

■ 当社事業所

本 社

〒135-0063 東京都江東区有明3-5-7 TOC有明

大阪支店

〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4

勝田営業所

〒312-0041 茨城県ひたちなか市西大島2-6-21

名古屋営業所

〒460-0011 名古屋市中区大須4-1-40

岩槻工場・エンジニアリングセンター

〒339-8510 さいたま市岩槻区上野6-12-8

原町工場

〒975-0027 福島県南相馬市原町区上北高平字植松268

加須工場

〒349-1158 埼玉県加須市新利根1-4-4

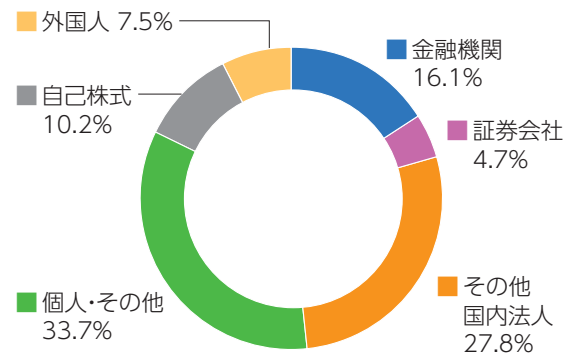
■ 株式の状況

発行可能株式総数 90,000,000株

発行済株式総数 23,446,209株

株 主 数 11,317名

■ 所有者別持株比率



■ 大株主の状況

株主名	持株数 (株)	出資比率 (%)
株式会社フジクラ	4,776,300	22.68
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,405,900	11.43
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	634,500	3.01
藤倉化成株式会社	569,840	2.70
藤倉航装株式会社	515,210	2.45
藤倉コンポジット従業員持株会	427,724	2.03
三井住友信託銀行株式会社	418,000	1.99
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	417,776	1.98
SMBC日興証券株式会社	391,800	1.86
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	291,300	1.38

出資比率は、自己株式2,388,768株を除いて計算しております。

株主メモ Stockholder Memo

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会の 議決権・期末配当：毎年3月31日 中間配当：毎年9月30日
公告掲載方法	当社ホームページ
上場金融商品取引所	東京証券取引所プライム市場
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00 (土・日・祝日及び12/31～1/3を除く)

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されてしまった株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

*確定申告をされる株主様は、大切に保管ください。

藤倉コンポジット株式会社

〒135-0063 東京都江東区有明3-5-7 TOC有明
(証券コード：5121)

アウトドア机上講座のお知らせ

山の奥深い魅力を味わえる
『山岳ガイドと一緒に歩く登山教室』の他にも、
キャラバンでは無料でご参加いただける
学びの場となる【机上講座】を開催しています。
講師には公益社団法人 日本山岳ガイド協会
理事長(武川俊二氏)を迎え、
山の楽しみ方や季節に応じた対応知識など
様々なノウハウを学べる場をご用意しています。



お申込みはこちらから！

[https://www.caravan-web.com/
seminar_form/](https://www.caravan-web.com/seminar_form/)



この年次報告書は、当社のブランケットを
使用して印刷しております。

